

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

保土ヶ谷区青少年指導員協議会 会長 白石 勝己



保土ヶ谷区制90周年を迎える年に、青少年指導員制度は50周年を迎えました。昭和44年に横浜市青少年指導員制度が施行されたことにより、保土ヶ谷区青少年指導員協議会が生まれ、青少年健全育成を理念に活動を始めました。発足時は社会事情もあって、主に交通問題や環境浄化に取り組んでいました。

昭和53年に開始した新春かるた大会(百人一首)を始めたことを契機に区全体に一体感が生まれ、以降まとまりをもって活動を継続してきました。中学生の声を反映し、独自に型紙を作って始めた手作り紙ヒコーキ大会や中高校生がスタッフとして活躍する子ども科学教室、バンドバトルなど青少年とともに多くのイベントを行ってきました。「継続は力なり」で、今年度でかるた大会は41回を迎えることができました。また、毎年実施する研修会では自らを研鑽し、多様化する青少年問題に対応できるよう努めています。

これからも全員参加を基本に、青少年指導員同士の和をもって、17地区が一体となり、活動を続けていきます。

「50周年記念誌発刊に寄せて」

保土ヶ谷区長 菅井 忠彦



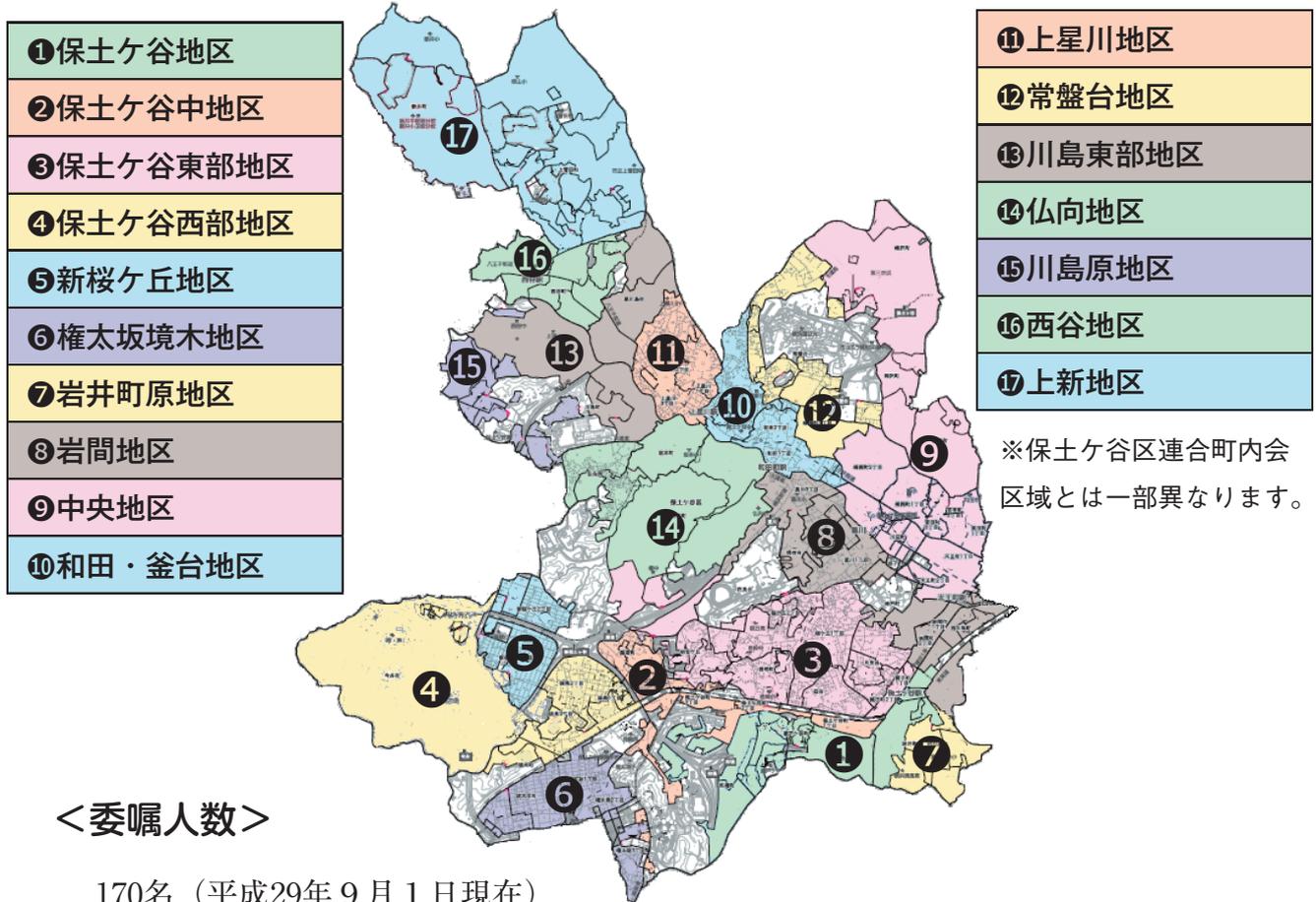
青少年指導員制度50周年記念誌の発刊を心からお祝い申し上げますとともに50年にわたる皆様の活動に敬意を表します。

この50年の間に、少子・高齢化や情報化の急速な進展、女性の社会進出、地域における人間関係の希薄化など青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況の中、地域に根ざした皆様の活動はますます重要性を増していくものと考えております。

今年度、保土ヶ谷区は区制90周年を迎え、同じく節目の年を迎えました。保土ヶ谷区青少年指導員協議会の皆様には発足以来、時代の変化に応じて試行錯誤を重ねながら、新春かるた大会、手作り紙ヒコーキ大会、子ども科学教室、バンドバトル等、多彩な事業を展開していただいております。今後も引き続き、青少年が健やかに成長できる環境づくりに、青少年指導員の皆様とともに手を携えて取り組んでまいりたいと思います。

青少年指導員の皆様のますますのご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

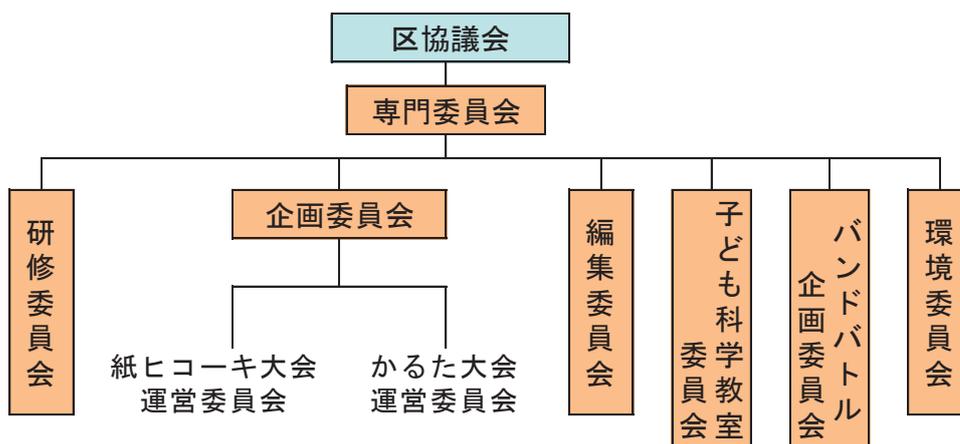
<保土ヶ谷区青少年指導員協議会 構成地区図>



<委嘱人数>

170名（平成29年9月1日現在）

<保土ヶ谷区青少年指導員協議会 組織図>



年間スケジュール

時期	事業名	時期	事業名
4月	新任者研修会 ※1	10月	全市統一行動キャンペーン
7月	保土ヶ谷区手作り紙ヒコーキ大会	11月	ほどがやバンドバトル
7月	全市一斉統一行動パトロール	1月	保土ヶ谷区新春かるた大会
9月	実技研修会 ※2	2月	理論研修会 ※2
10月	子ども科学教室	3月	機関紙「ほどがやの風」発行

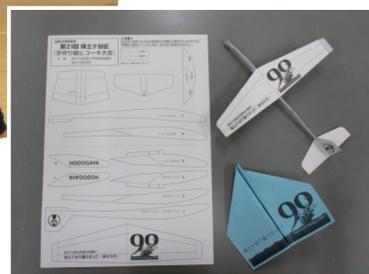
※1 委嘱の年のみ実施 ※2 隔年で実施

保土ヶ谷区

■保土ヶ谷区手作り紙ヒコーキ大会

紙ヒコーキ大会は、小学2年生以下の部、小学3・4年生の部、小学5・6年生の部、中学生以上の部の4部門に分かれて滞空時間を競います。小学2年生以下の部は折り紙ヒコーキ、それ以上の部は型紙ヒコーキを使用します。最近では家族で参加する人も増えてきています。

本選となる区の大会には各地区予選で選ばれた選手が参加できます。これまでの大会記録は平成21年の15秒11です。これを超える記録を期待したいものです。



■ほどがやバンドバトル



ほどがやバンドバトルは、1990年から始まったヤングミュージックフェスティバルが一時中断後、名称を変えて復活し、今年度で10回目を迎えます。

保土ヶ谷区内の学校に通っている中・高校生が大会に参加し、学校によっては予選を勝ち抜いてくるバンドもあり、白熱した大会となっています。

この大会は保土ヶ谷区明るい選挙推進協議会との共催で開催しており、実際に選挙で使われている投票箱で投票を行い、優勝者を決定します。

大会の進行や受付なども高校生がスタッフとして活躍し、選挙啓発マスコットのイコット Jr. の着ぐるみにも入り、大会を盛り上げてくれています。



■保土ヶ谷区新春かるた大会

今年度で41回目を迎えるかるた大会は、百人一首を使い、保土ヶ谷区独自のルールで実施しています。個人戦ではなく、3人1組で競うグループ競技で、目の前の人が対戦相手となります。本選となる区の大会には各地区予選で選ばれたチームが参加し、小学生、中学生、高校生以上、フリースタイル(小・中学生1名以上含む)の部に分かれてのトーナメント戦で行います。小学生、中学生の部は1回戦で勝ったチームはゴールドの部、負けたチームはシルバーの部へと進み、最低でも2回対戦できるよう進行方法も工夫しています。初心者でも楽しんで参加できる大会です。



■保土ヶ谷区青少年指導員だより「ほどがやの風」



「ほどがやの風」は年1回発行しており現在第47号となりました。第34号までは2色刷りでしたが第35号からは企業の協賛でカラー刷りになりました。カラー紙面は見やすく写真を使う事でわかりやすいとの評判です。年間の活動報告を6ページにまとめ、残り2ページは独自の内容で特集記事を組み込み特徴のある広報誌を作っています。

「事業活動の活性化の推進」

旭区青少年指導員連絡協議会 会長 大野 功



私が旭区の会長に就任した平成14年度に入って、現行事業を振り返り旭区が行っている事業への子供たちの参加が、少子化、塾通いやクラブ活動等社会環境の変化を背景に年々減少傾向となってきました。そこで、既存事業の活性化を図り、子供たちに夢や希望を与える楽しみのある事業、親子で参加しやすい事業、また、旭区内に多数ある自然や公園等に恵まれ野外活動も行える場所や施設等を有効に活用した事業活動を行うことにしました。

翌年の平成15年度から新規事業として実施することになったのが、「こども写生大会」、「親子野外自然体験活動」、「大なわとび大会」の3事業、その後平成23年度からは「学校音楽祭」がこれに加わり、これら4つの主要事業を今日まで継続して実施してきております。その他、旭区民まつりや旭区民スポーツ祭、各地域の盆踊り大会や健民祭、餅つき大会など地域で行われる多くの事業や活動にも参画・協働してきております。これら数多くの事業に尽力いただいている青少年指導員の皆さんに対して、横浜市及び神奈川県青少年指導員連絡協議会には、5年から10年未満の勤続者に対する表彰規定はないため、平成26年9月に旭区独自の顕彰要領を策定し、平成27年度から永年勤続者に感謝状を贈呈することとしました。これからも事業の実施にあたりましては、地域の各種団体、学校や行政等と連携・協調して進めてまいります。

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

旭区長 池戸 淳子



このたび、青少年指導員制度が50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げますとともに、長きにわたり青少年の健全育成に努めてこられました皆様の御尽力に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

旭区では、こども写生大会、親子野外自然体験活動、学校音楽祭、大なわとび大会、研修会など、数多くのイベントを、青少年指導員の皆様が中心となり、地域の皆様の御協力をいただいて、開催してきております。こうした地域での活動は、次代を担うこどもたちの自主性、社会性といった生きる力を養う絶好の機会となっております。

青少年指導員の皆様には、今後も行政と地域社会との間であって、両者の結びつきの役割を果たされますとともに、それぞれの地域において御活躍いただきますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、旭区青少年指導員連絡協議会の活動がますます発展されることをお祈りし、御挨拶とさせていただきます。

<旭区青少年指導員連絡協議会とは>

市内18区中、旭区は青少年指導員の委嘱数が最も多く、平成29年12月時点では228名が各地域で活動しています。

旭区青少年指導員連絡協議会の会長・副会長は地区会長の中から選出されております。年間の事業計画や実施結果などは、各地区の会長と専門部会の会長で構成される地区会長会議(毎月第2水曜日の夜)で検討・報告をしています。

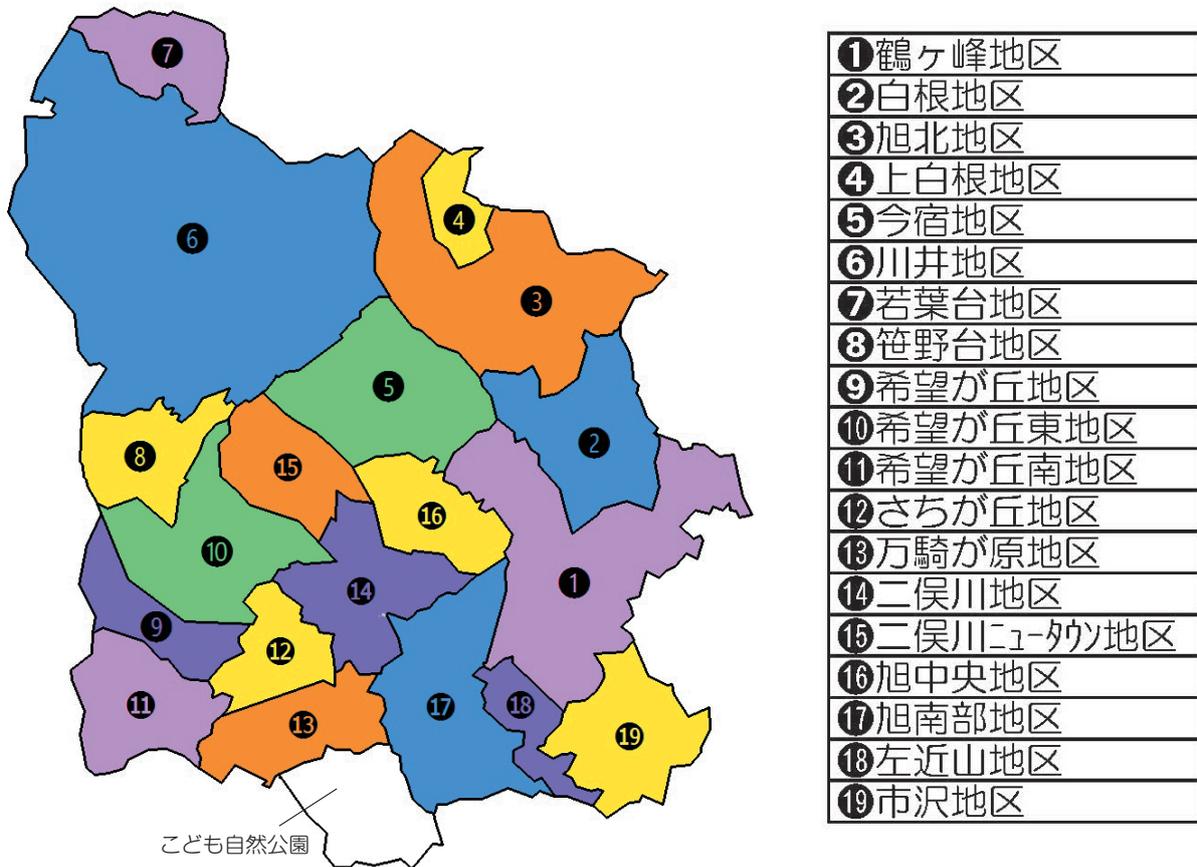
また、効果的に実行性のある活動を行うため、活動部会、研修部会、広報部会の3つの専門部会を設けています。

活動部会では、こども写生大会や親子野外自然体験活動など、旭区の青少年・親子を対象にした事業を企画・実施しています。毎年各事業に参加する児童・生徒にも楽しく参加していただけるよう、工夫を凝らしています。

研修部会では、救急法実技講習会や青少年指導員研修会など、青少年指導員のスキルアップを目的とした研修会を企画・実施しています。最近では、子どもとコミュニケーションをとるためのレクリエーションゲーム講習会が参加者から好評を得ています。

広報部会では、活動部会・研修部会が開催したイベントや各地区独自の事業をまとめた「あさひ青指だより」を年2回、自治会町内会をはじめ、区内小中学校や地域の皆様に青少年指導員の活動をお知らせするため発行しています。

<旭区青少年指導員連絡協議会構成地区図>



旭区こども写生大会

毎年9月頃、よこはま動物園ズーラシアで「旭区こども写生大会」を開催しています。

毎年の恒例行事となっており、中にはMY画板やクレヨンを持参するご家族もいます。参加方法は小学校へのチラシ配布や広報よこはまによりお知らせし、当日の呼び込みも行うなど、旭区外からも参加者がいるイベントで、29年度は267名の参加がありました。



写真は、28年度の児童が絵を描いている様子です。レッサーパンダがガラス越しの目の前で寝そべっている様子は絶好のモデルとなり、大勢のこども画伯がクレヨンを走らせていました。また、オカピの室内エリアでは仲間同士で絵を描き、弁当を食べ談笑していました。こどもたちの描いた作品は会場でスキャンをとり、後日、旭区役所で1週間展示を行いました。

旭区親子野外自然体験活動

毎年11月上旬、こども自然公園・青少年野外活動センターにて、「旭区親子野外自然体験活動」を行っています。29年度は15回目の開催となり、親子30組96名の参加がありました。

ウォークラリーではチェックポイントでクイズの正解を求めるとともに、「桜山」を散策しながら、「とりでの森・ちびっこ動物園」で一休み。丘の上から富士山も眺め

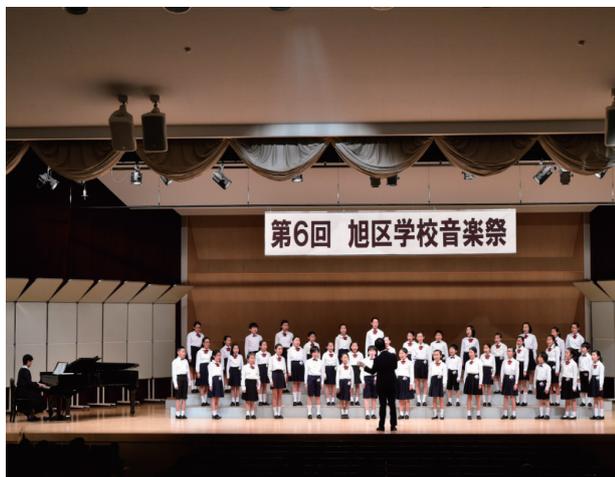


ました。

野外炊事では15のテーブルに分かれて、同じテーブルになった親子が協力し合い、焼きそばづくりを体験しました。こどもたちには仲間とのふれあい、目標に向かって協力する心、さらに後片付けの大事さも感じてくれたと思います。また、最後にウォークラリーの表彰式を行い、自然を体感しながら、とても楽しい野外自然体験でした。

旭区学校音楽祭

「旭区学校音楽祭」は、毎年12月中旬、横浜富士見丘学園中等教育学校の大講堂で行われています。



小学校、中学校あわせて十数校が参加し、合唱や吹奏楽・金管バンドの演奏が披露され、すばらしい歌声や小学生の大きな楽器を使っての演奏、また、中学生の迫力ある演奏に毎年感動をおぼえます。29年度で7年目となり、これまで参加したこどもたちは3,576名に達しました。

旭区役所との共催行事で、青少年指導員は活動部会を中心に、多くの応援スタッフが当日のステージ運営を行います。音楽祭のフィナーレには、出場校の児童・生徒や保護者、スタッフなど会場全員が一体となり「ふるさと」を合唱、楽しい恒例行事となっています。

旭区ではこの他にも、区民まつりの参加協力や研修会等を開催しています！
詳しい活動は広報等をご覧ください



旭区マスコットキャラクター
あさひくん

旭区大なわとび大会

「旭区大なわとび大会」は毎年1月下旬、横浜市旭スポーツセンターで行っております。9月～12月に各地区で行われる予選会を勝ち抜いてきた代表チームにより、跳ぶ回数を競技します。

開会式、ルール説明等の後、旭スポーツセンター職員による準備体操の指導でウォーミングアップを行います。競技は3部門で、小学校低学年の部と高学年の部、大人混合の部があります。平成23年度には2,086回という大会最高記録も出ました。



例年、準備の頃は体育館内もひんやりしていますが、競技が始まるとこどもたちの熱気であふれ、見ている保護者等も寒さを忘れる程です。旭区こども会育成連絡協議会の役員の皆様と一緒に続けてきたイベントで、29年度には15回目の開催を迎えました。